



町をつなぐ～新潟町と沼垂町 萬代橋と流作場

萬代橋の開通

沼垂町が現在地に定住した貞享元年(1684)頃、信濃川の川幅は700mほどもあり、対岸の新潟町との行き来は渡し舟によるものでした。**明治19年(1886)**「新潟日日新聞」社長の**内山信太郎**の架橋計画に許可があり、第四国立銀行(現在の第四銀行)頭取・**八木朋直**の資金援助を得て工事に着工、同年11月4日に長さ782m、幅6.4mの**初代「萬代橋」**が開通しました。**流作場五差路**は、**その東詰めのため**でした。

はじめは1人1銭の有料橋でしたが、**明治30年(1897)**の**沼垂駅開業**で利用者が急増、明治33年(1900)には県



千二百七十歩なり露の橋
(萬代橋を渡り見る)
高浜虚子

俳人の高浜虚子は、弟子の中田みづほ、高野素十、浜口今夜が新潟医科大学に在職していたため、何度も新潟を訪れています。大正13年(1924)9月に滞在していた折、萬代橋を歩いて詠んだ句は、石碑になって萬代橋西詰めのおクラホテル前に建っています。

営の橋となり無料で渡れるようになりました。

明治41年(1908)初代萬代橋は大火で焼失し、翌42年(1909)に二代目が完成します。その後、自動車交通の増大に伴い、**昭和4年(1929)**に鉄筋コンクリートの**三代目萬代橋**が架けられました。これが現在の萬代橋です。

大正11年(1922)上流に**大河津分水**ができて信濃川の流量が安定したため、信濃川両岸は計画的に埋め立てが進められました。その結果、川幅はぐんと狭まり、橋の長さは307m、逆に橋幅は22mに広げられ、車道と歩道が整備されました。**三代目萬代橋**は、**平成16年(2004)**に国の**重要文化財**に指定されています。



万代クロッシングに展示されている橋名板(本物)



たい焼きの「あま太郎」前から見た万代町通。正面を真っすぐの道路が万代町通で、左手が旧沼垂駅と旧新潟駅をつなぐ線路跡の通り

当時の汽車は、「あま太郎」の前を通って今の弁天公園の場所まで走っていたんです。たい焼きを食べながら見てみよう!



明治30年(1897)の沼垂駅開業により周辺にはぎわいが増して、沼垂四つ角周辺は「沼垂銀座」と呼ばれるほどでした。**明治37年(1904)**に**新新潟駅**が開業すると新新潟駅も新開地となります。大正・昭和期を通じて新潟市の戸数、人口は増大をしていきます。中でも新しい工場ができた沼垂・山の下や**流作場**は、交通の便が良くなったこともあって、多くの人が移り住み、



旧新潟駅(停車場)開業以来の駅舎 → 昭和10年に改築された旧新潟駅駅舎 → 現在は弁天公園



流作場では戦前に万代町などの通称町名が生まれていました。正式な町名が誕生したのは、昭和35年(1960)と昭和43年(1968)に大規模な住居表示変更が実施されてからで、以降、一部を除いて**流作場**という地名は使われなくなりました。現在は五差路の歩道橋、水島町の保育園に**流作場**の名前を見ることができます。



弁天公園



境内に設置してある新潟市のお宝解説板に詳しい説明が書いてあるよ!

三社まつりでは、神輿とともに天狗さまが地域をめぐり歩きます。時代は変わっても、いまでも変わらず**流作場**の守り神なのです



いい路地が続く 天明町界隈ですニャ



三社神社(中央区三和町)

「三社神社」は、**安倍玄武**が流作場の鎮守として**延享4年(1747)**に創建し、最初は「神明宮」と呼ばれていました。その後、数度の川欠けにより遷座して現在地に落ち着き、明治初期に「**三社神社**」と改称しました。境内には現新潟駅の近くから移された「**石宮神社**」や歴史的な碑などがたくさんあります。

左:明治11年(1878)、明治天皇巡幸の際、安倍家で休んだことを記念した石碑(右:昭和初期まで旧新潟ホテル付近にあったと伝えられている嘉永7年(1854・11月に安政改元)の道標



万代町通界隈

つながる町～「万代町通」

明治19年(1886)の萬代橋開通後、橋と沼垂町を結ぶ長さ650mの県道が造成され**新道**と呼ばれました。**明治30年(1897)**、沼垂町の竜が島に北越鉄道(後の信越線) **沼垂駅**が開業し、さらに**37年(1904)**鉄道が延びて**流作場**(現在の弁天公園付近)に**新新潟駅**が開業すると、**新新潟駅**と**沼垂駅**を結ぶ**新道**には多くの商店が建ち並ぶようになって、「**万代町通**」と呼ばれるようになりました。また、新潟市から萬代橋を渡った先の、東に**万代町通**、

西に**新新潟駅前通**となる交差点は**流作場三差路**(現在の**流作場五差路**)と呼ばれるようになりました。

鉄道の開通により、竜が島や山の下に石油精製・製紙などの大工場が建設されて竜が島に近代的な埠頭の建設計画がたてられ、沼垂と新潟の合併も進められます。**大正3年(1914)** **新潟町**と**沼垂町**が合併し、**流作場新田**は**流作場**に改称され、**大正15年(1926・12月に昭和改元)**に竜が島に**竜宮の埠頭**が完成し、竜が島周辺は新たな新開地として急激な変貌を遂げていきます。



※この鳥瞰図は、昭和13年に予定されていた「日本海大博覧会」宣伝用に当時作成されたものです。一部当時のまちの様子と異なる部分があります。

かつてい建物発見! ボクもどこかにいるよ!



万代町通は、戦争中に道路の南側が拡幅されましたが北側は手つかずなので、古い建物がいくつか残っています